

審査員からのコメント

愛媛県の伝統工芸の一つである伊予絣を通して地域活性化を目指した研究である。天然の染色技法としては藍染があり、伝統的な藍色以外には赤紫などが知られているが赤色について実現するための還元剤の種類や量について検討している。論文の背景・目的では、社会的な意義と研究目的が丁寧に説明されていた。過去作品からの継続であったが、違いが記載されていた。さらに藍染の化学反応の説明により、着目する赤色色素についても分かりやすく示されていた。方法についても、目的に即した内容であった。藍染は日本各地で行われていること、また染色技法は伊予絣以外の繊維にも幅広く適用できる可能性から、導入障壁、市場性の観点からも持続可能性を評価したい。

